

1年1組

 冒険しよう！発見しよう！
～やりたいこといっぱい～


がんばって！こいのぼりさん

4月下旬から「大きくてカラフルなこいのぼりをつくろう」と、構想をはじめから2か月後、ようやくこいのぼりが空を泳ぎました。

10mの布に三度色を重ね、画用紙と手形でつくった鱗・クレヨンで塗り込んだ目・カラーテープで結んだヒレをつけました。ただの布だったはずが、いつの間にか大切な『こいのぼりさん』になっていました。

校庭の国旗掲揚ポールに結ばれたこいのぼりが子ども達の手でだんだんと上がっていきませんが、風は少し吹く程度でした。すると、Hさんが「風よ、ふけー」と空に向かって叫びます。少しずつこいのぼりがなびき始めると、その声はいつの間にか「がんばれ!」に変わっていききました。そして、声はだんだんと子どもたちに広がり、「がんばって!」「がんばって!」と弾みながらの大応援団となりました。その応援を受けて風をつかんだこいのぼりが大きなからだをはためかせて泳ぎ始めました。子どもたちは、歓喜の声をあげます。泳ぎ始めたこいのぼりを見てNさんが「こいのぼりの歌を歌おうよ」とみんなに提案します。「やねよりたかーいこいのーぼーりー♪」と校庭に歌声が広がります。歌声に合わせてこいのぼりが体を揺らして泳ぎます。

私は子どもたちとこの場において、とっても幸せな気持ちになり、ここにずっと居たくなりました。最後にHさんが「先生、こいのぼりさんに名前つけようよ。」と言いました。生活科の一端であった『端午の節句』が『ぼくたち・わたしたちのこいのぼりさん』になったのだと思いました。



昔の人の大変さを感じたい

7月に入り、実習生の先生たちと『たなばた』を楽しんでいる間にすくすくと生長していたのは、15個のプランターから芽を出し、葉を増やし、つるを伸ばす朝顔たちでした。朝顔以上に生長していたのは、朝顔を覆う雑草たちでした。そこで「草がボーボー、どうする？花壇」と子どもたちに投げかけました。すると「このままじゃ、雑草が伸びて、朝顔におひさまが当たらなくなって、枯れてしまうよ!」とHさんが言いました。「雑草は、草を刈るだけじゃあ、またすぐ生えてくるから、根っこから退治しないとイケないんだよ。」とTさんが言いました。そこで、「ボーボーの雑草を退治して、朝顔を守ろう!」と花壇に出て早速草とりを始めました。しかし、雑草はしっかりと根を張り、土は固く、全然草が抜けません。「うんとしよ、どっこいしよ」と掛け声をかけながら『大きなかぶ』のように草を抜こうとしていました。なんとか草が抜けると、誇らしげにYさんが「先生、抜けたよ!」と見せてくれました。



翌朝、Mさんがおもむろに「先生、昨日、寝る前に描いたよ。」と一枚の絵を見せてくれました。そこには、アーチ状に広がる朝顔のトンネルや池の絵でした。Hさんの絵をみんなで見ると「私も描きたい!」「ぼくも!」とみんなで花壇の絵を描きました。そして、「朝顔トンネルはドーナツ型で中に池を作ろう。」と話が展開していきました。草がボーボーだった花壇が素敵な庭になることを想像するだけでワクワクしました。しかし、現実はその甘くはありません。課題はたくさんありました。まずはカチカチ状態の土です。ここにトンネルの支柱を差し込んでもせいぜい2、3cmほどしかささりません。どうしようかと相談すると、以前池をつくった際、その水が溢れチョコレートの沼状態になったことを思い出しました。「水をかけて掘ればいいじゃない」とRさんが言いました。「それいいね、やってみよう!」ということで、水→掘る→水→掘る作戦を決行しました。外側の12個の支柱の穴を分担しながら掘ることができました。手から肘くらいまで入るほど深い穴になり、これで台風がきても倒れそうにない丈夫な支柱になりました。次は、池です。「できるだけ大きな池がいい」とTさんが言います。大きい池を作るのはいいのですが、「どのくらい大きい?」「深さはどのくらいなの?」「池を作っても生き物はどうするの?」「池の周りに置く大きな石はどうするの?」と、質問がたくさん出されました。意見交換しながら、肩くらいまでの深さで少し余白を残す池にすることができました。



前日の支柱の穴づくりと以前の池づくりの経験を生かして池づくりが始まりました。規模が大きいので掘っても、掘っても、掘れている感じがしません。池をつくりながら「昔、(電気や車の)道具がなかったころは、こうやって手で掘ったり作ったりしていたんだよ。」と子どもたちに語りかけると、「昔の人って、すごいね。」「よくやったよね。」と、その力や苦勞に感心していました。Yさんは、「昔の人の苦勞を感じたい。」と言って、作り途中の池の中に入りじっと池の中で動かずにいました。きっとYさんは、自分のひいおじいちゃんを思い浮かべながら、「こうやって穴をほったり、ものをつくりしていたんだな。」と想像していたのではないかと思います。機械やAI・ドローンなど便利な世の中になりましたが、ひとつひとつ自分の手や体を使ってつくることで、土を知り、植物を知り、自然を知る。自分の力を知り、友の優しさを知り、先人の苦勞や知恵を知る。土を掘り続けた三日間で大切なことに気が付き感じるようになりました。



また、プールでも朝顔の花が咲きました。子どもたちが手をつなぎ浮いたりしずんだりすると、なんだか朝顔の花のように見えました。



もう一年が経ったみたいだね

夏休みまでの4ヶ月間を振り返った時、Yさんが「もう一年経ったみたいだね。」と言いました。この4ヶ月弱の間にたくさんのことに挑戦してきました。「やりたい」「もっとこうしたい」という願いからスタートし、大変さをみんなで面白さに変えていきました。子どもたちは、遊びの中で友達と力を合わせ、息を合わせ、心を合わせていきました。すっかり大のなかよしになりました。喧嘩をできるほど自分を発揮できるようになりました。子どもたちは、今を一生懸命生きています。そして、大人である私たちが忘れてしまった何かを思い出させてくれます。本当に子どもは素敵だなと思う4ヶ月でした。

子どもたちとの冒険はまだまだ続きます。夏休み後もどんな子どもの姿に出会えるのか今から楽しみです。

